

2017年度 企画展 「ファッションとアート 麗しき東西交流」

2017年 4月 15日（土）～ 6月 25日（日）（5月4日を除く木曜日 および 5月8日[月] 休館）

主催＝横浜美術館、公益財団法人京都服飾文化研究財団、日本経済新聞社

19世紀後半から20世紀初頭にかけての、美術とファッションの東西交流に焦点を当てる展覧会。日本では明治期に開港した横浜をひとつの拠点として、西洋からもたらされたファッションやライフスタイルが、人々の暮らしに浸透していきました。一方、西洋へは日本の美術品や着物が盛んに輸出されるようになり、ジャポニズムのブームが起きました。本展では、京都服飾文化研究財団（KCI）所蔵のドレスや服飾品約100点をはじめ、絵画、工芸品など計約200点を展覧し、日本と西洋が互いの装いと生活の文化をどのように受容・展開し、新しい美を見出していったかを紹介します。

【章構成と主な作品】

1章 イントロダクション：東西文化の交差点としての横浜



室内着（椎野正兵衛店）
1875年頃（明治8年頃）
京都服飾文化研究財団 蔵



室内着（飯田高島屋）
1904-08年頃（明治37-41年頃）
京都服飾文化研究財団 蔵



芝山細工 飾棚
19世紀後半～20世紀初め（明治時代）
金子コレクション



初代 宮川香山
《高浮彫桜二群鳩花瓶》
19世紀後半（明治前期）
田邊哲人コレクション
（神奈川県立歴史博物館寄託）



歌川（五雲亭）貞秀
《横浜交易西洋人荷物運送之図》
1861年（文久元年）
Ryu Collection

2章 日本における西洋文化受容

① 洋装の受容と和装の洋風化



昭憲皇太后着用大礼服
1906年（明治39年）
共立女子大学博物館 蔵



ペンダント付ネックレス（天賞堂）
20世紀初め（明治後期）
日本宝飾クラフト学院 蔵



蜂須賀家旧蔵 ロープ・モンタント
19世紀末、フランス
東京国立博物館 蔵

② 描かれた洋風ファッション



月岡芳年
《風俗三十二相
遊歩がしたさう》
1888（明治21年）
京都服飾文化研究財団 蔵



山本芳翠
《園田銚像》
1885年（明治18年）
郡山市立美術館 蔵



小川月舟
《帽子の少女》
1923年（大正12年）
横浜美術館 蔵
（小川香苗氏寄贈）



鍋木清方
《秋宵》
1903年（明治36年）
鎌倉市鍋木清方記念美術館 蔵

3章 西洋における日本文化受容

① ジャポニズムのファッション



（左より）
ドレス（ターナー） 1870年代、イギリス
コート（リンカー） 1913年頃、フランス
『ジュルナル・デ・ダム・エ・モード』
1913年12月号より
以上 京都服飾文化研究財団 蔵

（右端）
ルネ・ラリック
チョーカーヘッド《菊》
1900年頃
箱根ラリック美術館 蔵

② 暮らしの中のジャポニズム



伊万里写ティーセット
（ロイヤル・ウースター社）
1881年
三菱一号館美術館 蔵



エミール・ガレ
《水辺に蜻蛉文二段テーブル》
1895年頃
サントリー美術館 蔵

③ 描かれたジャポニズムのファッション



ジュール=ジョゼフ・ルフェーヴル
《ジャポネーズ（扇のことば）》
1882年
クライスラー美術館 蔵